コーディネーターのスキルアップとネットワーク① 2012年度の成果

この一年間、私たちは「さまざまな人々をどうやって未来へつなぐのか」を議論し てきました。本号ではその成果を報告します。

地域にはさまざまなコーディネーターがすでにたくさん活躍しています。その人 たちと持続可能な地域と地球をつくることを目指す ESD の視点と抱負を共有すること によって、持続可能な社会への取り組みは幅広く地に足のついた流れになっていきま す。ではそれをどういう方法で進めるのかが、この間の議論の中心テーマでした。

そして、以下のふたつの研修パターンが見えてきました。2013年度はこれらを試作・ 試行していくことになります。

Type1

プロジェクト OJT 型 (@ p2)



Type2

効果的・効率的な学習方法のミックス型(☞ p5)



議論はさまざまな角度から行いました。コーディネーションや ESD に関する専門家 等による「ビジョン&枠組み検討 WG」で大枠を検討し、「OJT 型研修ブラッシュアッ プWG」では3地域のコーディネーター研修の実績から教訓をくみ取り、「関東コーディ ネーター学びあい WG」では関東地域の現場のコーディネーターが実践的なプログラ ムを検討するという具合に。これまでの成果をご覧いただき、たくさんのフィードバッ クをいただければ幸いです。

Contents -

p2-4 ビジョン & カリキュラム枠組検討 WG 報告

p5-7 2012年度関東コーディネーター学びあいプロジェクト報告

p8-9 OJT 型研修ブラッシュアップ WG

岡山 ESDコーディネーター育成セミナー報告 EPOちゅうごく 松原裕樹さん 稲城 ESDコーディネーター育成セミナー報告 稲城市教育委員会 千葉正法さん

p10-11 コーディネーター研修の現場から③ 北九州市 ESD コーディネーター育成講座「ESD 未来創造セミナー」

NPO法人 北九州サスティナビリティ研究所理事長 三隅佳子さん 北九州市環境局環境学習課ESD推進係長 徳永晶子さん

p12 ESD-J 全国ミーティング 2013 in 岡山

編集後記

ESD 理解の促進ツールと 多忙な現場をもつ人も参加できる 「あらたな研修の形」を生み出そう

ビジョン&カリキュラム枠組検討WGでは、ESDコーディネーター・プロジェクトでどのようなコーディネーターを、い つまでに何人育成し、社会にどのようなインパクトを与えようとしているのか? といったビジョンを描き、それをもとにメ インカリキュラムのあり方、テキストブックの概要をまとめることに取り組んだ。ここでは、そのとりまとめの概要を報告する。

ビジョン&カリキュラム枠組み検討WGメンバーとプロセス

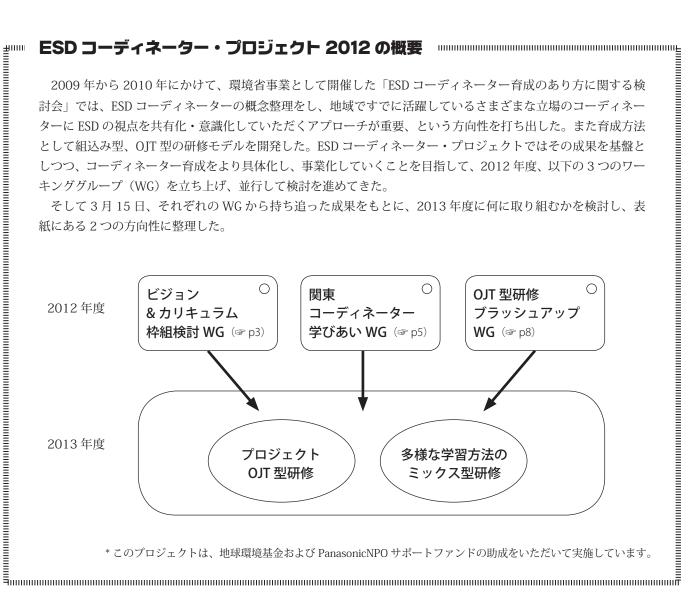
本WGは、学校と地域、それぞれでESD推進やコーディネーター育成に取り組んでいる方、そしてボランティア・コー ディネーター育成を事業化されている方などの参加を得、ESD-J 理事も加わって、9月から12月にかけて4回開催した。

【WG メンバー】

ESD-J基盤強化 PJアドバイザー: 早瀬昇氏(大阪ボランティア協会)

学校の ESD推進組織: 柴尾智子氏(ACCU、ユネスコスクール事務局) 千葉正法氏(稲城市教育委員会)

研修事業のエキスパート: 川嶋直氏(キープ協会) 高田研氏(都留文科大学) 壽賀一仁、森良、杦本育生、池田満之、重政子 ESD-J理事:



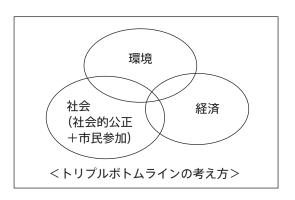
● ESD コーディネーターとは?

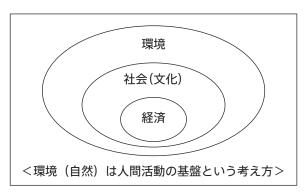
まず最初に、ESD コーディネーターとはどういう役割を果たす人のことなのかを、環境省 ESD コーディネーター育成のあり方検討会とりまとめの文章をもとに、再確認した。また、議論の中で、ESD コーディネーターは新しい固有の職種ではなく、すでに活躍しているさまざまなコーディネーターが ESD の視点をもつことによって、地域の人々の学びあいや持続可能な地域づくりを促進していけるようになることとした。

(前半省略) ESD は持続可能な地域づくりや社会づくりを担う「人づくり」を目指すものであるため、ESD コーディネーターは、さまざまな活動や教育・学習を通して、個別課題に取り組む関係者をテーマを超えてつなぎ、多様な主体の学びあいを生み出し、持続可能な社会づくり・地域づくりにむけた市民の社会参画の力を育む(エンパワメントする)場をつくることが役割となります。

■ 持続可能な社会の定義について

ESD の議論をする時に、SD(持続可能な開発)の理解がバラバラであることが ESD をわかりづらくしている、との指摘を受け、以下のことが話された。国際的な議論でも定まった定義はないので、テキストを作るときに「持続可能な社会」をどのように示すかは課題となるだろう。とりわけ、環境と経済・社会の関係や、社会のとらえ方などについては考え方が一様でない。いくつかの考え方を示し、どれがよいか議論することで、考えを深めていく、というアプローチも考えられる。



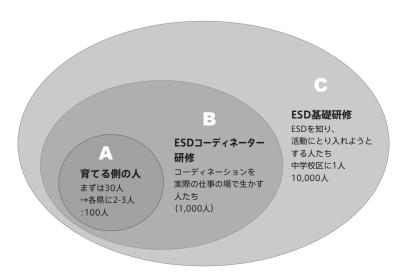


■ ESD コーディネーターに重要な 7 つの視点

環境省の検討会でとりまとめた7つの視点は、ESD コーディネーターの資質と役割が書かれている。既に存在する多様な分野のコーディネーターとの違いは何か? という議論も行われたが、「学びを通して」「持続可能な社会を目指す」という点が特徴であることが確認された。

- 1. 地域の持続可能性、世界の持続可能性を視野にいれたビジョンを持っている
- 2. 地域の課題に取り組む一員としての自覚を持っている
- 3. 市民のエンパワメントを促進する
- 4. 多様な主体(教育現場を含む)の参加と協働を促す
- 5. 多様な課題を把握し、分野横断的な活動を促す
- 6. さまざまな主体が社会的責任を果たせるよう働きかける
- 7. 持続可能な社会にむけたビジョンの実現に向けた道筋を示し、それをプロデュース、マネジメントする

■ ESD コーディネーター・プロジェクトが対象とする層と規模



最初の数年でコーディネーター研修を実施できる 講師グループを30名つくり、その講師たちが数人 で、各地でコーディネーター研修を実施し、B)の人々 を増やしていく、という目標を立てた。B)の受講 対象者は現場をもっている人とした。現場とは、以 下の2通りが考えられる。

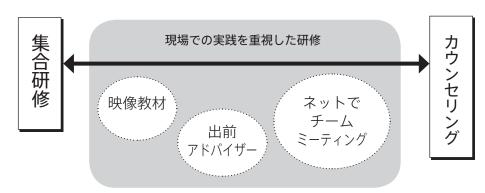
- ① コーディネートを業務とする現場(社会教育 主事や地域の中間支援組織)
- ② 活動や学びの作り手としての現場 そして B) の人たちが、地域でそれぞれに C) の人 たちを増やしていくことを想定している。

■ ESD コーディネーター育成のためのツール

E たちが実施する B) を対象としたコーディネーター研修カリキュラムと、A)B) の人たちが B)C) の人たちに ESD をわかりやすく伝えるための共通ツールとして、「ESD 基本教材(仮称)」を開発することとした。

教材は、当初テキストブックのようなものを想定していたが、テキストブックが持つイメージや形にはとらわれない、楽しくて広まっていくようなツールを生み出したいと考えている。カード形式の解説書とワークシートがセットになったもの、絵本、紙芝居、映像教材など、アイデアがたくさん出てきた。4月の上旬には方向性意をある程度絞り込み、制作に着手していく予定である。

また研修は、忙しい現場を持つ人たちが参加しやすく、かつ個別ニーズに応えられる新しい研修の形を模策する必要性が確認された。集合研修と個別カウンセリングの間には、映像教材を使った通信研修や、アドバイザーの巡回、ネット環境を活用したグループ学習など、さまざまな形が考えられる。2013年度はこれらを効果的・効率的に組み合わせ、現場の実践者によりそった研修の開発に取り組んでいくことになるだろう。



<効果的・効率的な学習方法のミックス型>

■ ニーズをつくりだすプロジェクト

最後に、WGの中でメンバーは、「ESD コーディネーターという存在も、ESD コーディネーター研修というニーズも、まだ 顕在化していない状況の中で、このプロジェクトは事業として成立させるのは困難なのではないか」という自問も行った。

しかし、持続可能な社会づくり、そしてそのための学びの場づくりのためには、コーディネーターの存在は欠かせない。このことを次なるニーズとしてとらえ、まずはやってみて成果を見せる。「ほら、これ、必要でしょ」と提案し、「ほんとだ、いいですね」「よし、うちでも始めよう」という地域を増やしていく。そうしてニーズをつくりだしていくことで、雪だるま式に ESD が広がっていく、そんなプロジェクトに育てていきたいねと、WG では話している。

ESD コーディネーター・プロジェクト事務局 村上千里

2012 年度 関東 コーディネーター 学びあい プロジェクト 報告

共有されたコーディネーターのイメージと育成方法

"持続可能な社会のビジョンに沿ってつなぐことで エンパワーし協働・協力関係を紡ぎだす人" をOJTで

関東コーディネーター学びあいプロジェクトは、今年度4回の会合を開き、ESDコーディネーターのイメージ、その育成方法について検討を重ねてきた。関東の第一線の実践者たちがまとめた内容を報告する。

関東コーディネーター学びあい プロジェクトとは

2011年度、ESD-J は環境省関東地方環境事務所の ESD 推進事業の一環として、関東 1 都 9 県(新潟、静岡、山梨、茨城、栃木、群馬、埼玉、神奈川、千葉、東京)から、地域で活躍するコーディネーターに各都県一人づつ参加いただき、コーディネーターのあり方を考えるワークショップと「関東 ESD 学びあいフォーラム」を開いた。

そこで、コーディネーターの掘り下げていくべき課題と して

- ①参加型の地域づくり
- ②市民のエンパワメント
- ③コーディネーターのスキルアップとネットワーキングの3つがあげられ、引き続き検討を深めていくことが確認された。その確認に基づき、2012年度はESD-Jが地球環

境基金の助成を受け、ESD コーディネーター・プロジェクトの一部として「関東コーディネーター学びあいプロジェクト」を立ち上げ、8月から2月まで4回の会合を開催した。

<参加団体と参加メンバー>

群馬 太田祥一氏 (群馬県生涯学習課)

山梨 加藤大吾氏(都留環境フォーラム)

茨城 横田能洋氏(茨城 NPO センターコモンズ)

静岡 鈴木まり子氏 (浜松市こらぼ講座講師)

千葉 横山清美氏、桑波多和子氏(環境パートナーシップちば)

栃木 菊地敦子氏 (ワークショップ reco)

新潟 阿部巧氏(社団法人中越防災安全推進機構復興デザインセンター)

埼玉 長岡素彦氏(ESD 埼玉)

東京 小原宗一氏 (日本ボランティアコーディネーター協会)

事務局 森良氏(エコ・コミュニケーションセンター)

■コーディネーターのイメージと必要なスキル

コーディネーターのイメージ

- つなぐことでエンパワーする人
- 協働・協力関係をつむぎだす人
 - →協治*の形成につなげられる人
- 異なる立場の人々を対等にして出会わせ、つなぎ、持続可能な社会のビジョンに沿って調整していく人
- 自分の行きたいところを持っている人
- アジェンダを持たない人**
- 企画できる人
- (役所との競合)地域のしごとのプロデュースができる人

イメージする役割をはたすために必要なスキル

- ・ コミュニケーションスキル ・ 対話力
- 問題解決のスキル ・ 創造力
- ファシリテーションスキル 傾聴力 質問力
- 専門分野の知識
- さまざまな主体間の調整意見調整力
- 相手の立場を知る
- 行政に対する交渉力機会・場づくり力
- 情報収集力、提供力 メタ認知力(俯瞰できる)
- 伝える力(語彙力、表現力、プレゼン力、文章力)
- 共感・ 度胸

*協治:ガバナンスのこと。ガバメントが政府の法的拘束力のある決定であるのに対しガバナンスは当事者、関係者による合意形成・意思決定を表わす。

** アジェンダを持たない人: アジェンダ (計画、議題) はあくまでも当事者が設定するもの、それを尊重してコーディネーターが動くのであって、コーディネーターが予めアジェンダを持って動かしてはならない。

☆コーディネーターがやってはいけないこと (例:介護の原則) 介護の原則とは、「その人ができることをしてはいけない」 というもの。当事者が力を発揮して自力で解決していける ようにするのがコーディネーターの役割であり、当事者の 力を奪うようなことはしてはいけない。

ESD の視点を持ったコーディネーターを育成するには

プロジェクトでは、まずコーディネーターについてのイメージを共有し、それを育成するためにはどうすればよいかを検討することになった。

また、「ESD コーディネーター」という固有の業種や資格者を育成するのではなく「ESD の視点を持ったコーディネーター」を育成することが大切であることが確認された。「ESD の視点」は次の3つを基本とした。

- ①包括的、総括的、分野横断的(ホリスティック) に考える
- ②当事者、関係者同士が学びあう
- ③サステイナビリティ(持続可能性)を広く考え社会的公正や社会的包摂の考え方も含むものと捉える(地域の現実から出発する)

以下、検討された内容を表にしてみる。

(課題) コーディネーターの必要性の 見える化

なぜ、ESD の視点を持ったコーディネーターが必要なのかについて改めて検討を行う課程で、コーディネーターを育成していくときの課題も議論された。コーディネーターの仕事をどう評価するか(評価方法、基準)とそれをどう「見える化」(一般の方々に理解してもらう工夫)するかである。ESD 活動をコーディネートすることによる質的変化をどう評価するかについてさまざまな意見が出された。

主な意見としては、

• 共同評価(自己評価×他者評価)の必要性

- コーディネーターの存在、(不在)による事業の成果/ 評価について
- コーディネーターが関わる事による成果のプロセスを 示すこと

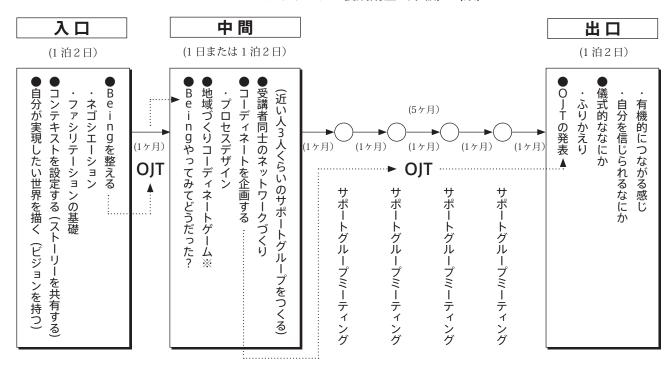
等であったが、このテーマは、コーディネーターの社会的 認知や自立、専門化による持続可能な社会のための人材養 成、そのための仕組みづくりを考えていく上で重要である ことが確認された。持続可能な社会の実現に向けてはそれ ぞれ各領域の活動を有機的につなげていくことにより,単 独分野でのアクションよりダイナミックなアクションが可 能となり、そのために,それぞれの領域をつなぐコーディ ネーターが必要である。

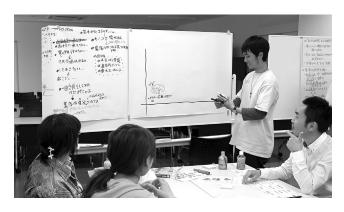
育成方法の提案(ESD コーディネーター養成講座中級編)

地域で活躍している様々な主体に対し、課題解決に向け 共通ビジョンを持ってもらい、そのビジョンを核として、 それぞれをつなげる場の提供を行うことは ESD の大きな機 能であり、それを行うのが ESD コーディネーターの役割の 一つである。「関東コーディネーター学びあいプロジェク ト」では、最後にそのようなコーディネーターの育成方法 について「養成講座中級編」という OJT をメインとした半 年のコースとしてまとめてみた。

地域において、ESD コーディネーターとして活躍するために要求される能力やスキルはどのようなものが想定されるか。専門職と兼業、活動経緯や領域の違い等、個人により差異はあるが、共通に持つべき「知識」や「技術」、その根幹にある「思い」はあるはずである。その共通部分を

ESD コーディネーター養成講座〈中級)(案)





ベースとし、さらに「チームビルディング」、「コミュニケー ションスキル」、「ネゴシエーション能力」や「伝える技術」 等様々なスキルが要求される。

ESD の視点でコーディネートするスキルを持った人材養 成のため研修プランの大枠は、「入口」-「中間」-「出口」 の3ステップから構成することとした。それぞれの段階に 応じた研修内容は以下の通りである。

入口 部分は自己を見つめ直すことから始める。自分自 身の得手・不得手を客観的に把握し、弱点を克服し得意分 野を伸ばしていく。そして、ビジョンの明確化や場のコン テキストの設定手法を基本研修として組み入れる。参加者 によって研修内容にアレンジを加えていく。

コンテキストの設定はコーディネーターの仕事の核をな すものである。ステークホルダーは皆それぞれの脈絡(コ ンテキスト)のなかで活動している。それらをしっかり読 み取り、すべてのステークホルダーの共通の脈絡に置き換 えていくのがコーディネーターの仕事になる。言い換えれ ば、こういうことだったらいっしょにできるねという共通 のストーリーづくりのお手伝いをするということである。

コーディネーターとは人と人との間に入りかかわること であるから「どうあるのか (Being)」が極めて重要である。 自己を振り返り、自分の「弱み強み」や自分が場に与える 影響等を客観的に把握する研修を行う。研修後、実際の自 分の活動にフィードバックを行う1か月程度のOJTを行う。

中間部分は、地域の課題を知り、課題解決に向けた地 域やリソースとのと関係性を構築していくための研修を共 通内容とし、それぞれの地域や課題の実情に合わせた地域 ESD ネットワーク構築に向けた具体的なコースデザイン、 コーディネートプランニング等の研修を行う。地域や活動 内容が近いメンバーでサポートグループを作りネットワー クの核を作る。研修内容を自分の活動にフィードバックす る概ね5カ月程度のOJTを行う。サポートグループでは1 か月に1度程度のミーティングを行い、お互いのOITにつ いて報告を行い、励ましあう。

出口 部分は、地域における他のリソースとのネットワー ク化を目指す。自分が行っている活動に関する情報の発信及 び活動継続のためのファンドレイズを共通内容とし、それぞ れが属している団体、組織、地域の活性化を目指しチーム力 の強化を図る。構成員が自己の役割を認識し、その能力を適 切に発揮できる組織作りのための「気づき」を促し、自分や 社会にとっても役立つモノを一緒に作りあげようというコミッ ト感が共有できるためのスキルアップを目指す研修である。

社会がコーディネーターを支える 仕組みを

ESD コーディネーターが「ブランド」として確立し、様々 な地域課題の解決や望ましい社会の実現に向けて「中心」 として力を発揮していくためには、社会がそれを支える仕 組みが必要である。一般市民がそこに価値を見出し「有償 活動」として認知されるように、我々はきちんと成果を残し ていかなければならない。また、そのような仕組みづくりに より、地域が一体となった持続可能な社会も期待できる。

一般の人に広く理解を求めて成り立つ仕組みというのは 現状では困難であるが、そこを目指すことは可能であり、 目指していきたい。

> 群馬県生涯学習課 太田祥一 ESD-J コーディネータープロジェクト担当理事 森良

※ 地域づくりコーディネートゲーム

新潟県中越の地域復興支援員の研修会において、(社)中越防災安全推進機構、田口太郎氏(徳島大学総合科学部准教授)が開 発した集落支援のコーディネートのシミュレーションゲーム。カードゲーム形式で、仮想集落を設定し、集落の想定される課題 を整理し、その集落の自律に向けてコーディネーターがどのような活動を展開するのかを考えるもの。

コーディネートゲームの説明

①地域の課題を明確にする(30分) 0.10

②地域 づくりのストーリーを組み立てる(60分)

③外部 人材の活用を組み入れる(10分)

④活動 にコンセプトをつける(15分)

⑤長期的な視野にたって克服すべき課題を挙げる(30分)

2:35 グループ発表・検討

3:05 終了

集落を地域に変え、状況設定を自分たちで行えば、ESD のコーディネート にも十分に応用の効くプログラムである。



OJT 型研修 ブラッシュアップ WG コーディネーター研修の 3 つのポイント ものの見方・考え方を共有する。 Being をつかむ。 体験から学ぶことを知る。

本WGでは、環境省で試行されたOJT型研修モデルを参考にしながら、独自事業としてESDコーディネーター研修に取り組む3地域に参加いただき、それぞれの実践から、このモデルをブラッシュアップするために重要な視点や、具体的な方法を抽出することに取り組んだ。

● OJT 型研修ブラッシュアップ会議のメンバー とプロセス

会議には、北九州市、岡山市、稲城市でそれぞれに ESD コーディネーター研修・ESD 研修に取り組む自治体、企画運営団体、そして講師を務めた方々にご参加いただいた。講師のみなさんは 2009-2010 年の環境省の検討会で委員を務めている。10 月と 2 月に 2 回の会議を開催した。

<参加団体と参加メンバー>

- 2 3 H H C 2 3 H 7 7 7 7				
北九州	自治体	北九州市 伊東信二氏		
	企画運営団体	北九州サスティナビリティ研究所 三隅佳子氏、樋上禎子氏		
	講師	高田研氏(都留文科大学)		
岡山市	自治体	岡山市 原明子氏 岡山市立中央公民館 重森しおり氏		
	企画運営団体	EPO ちゅうごく 松原裕樹氏		
	講師	志賀誠治氏(人間科学研究所)		
稲城市		教育委員会 千葉正法氏		
	講師	森良氏(エコ・コミュニケーションセンター)		

●「OJT 型研修」と各地の取り組み

そもそも、ESD の視点をもったコーディネーターは現場から切り離された研修で育成できるのか? コーディネーターに必要な態度やスキルは、学んだことを現場で生かし、苦労しながら身に着けていくことしかできないのではないか? という考えのもとに提案された研修の枠組みが「OJT型研修」だ。OJT(On the Job Training)とは、職場内で上司や先輩が日常の仕事を通じて、必要な知識・技能・仕事への取り組み等を教育することだが、ここでは集合研修のスケジュールの中にOJT期間を設け、研修で学んだことを自分の持ち場で実践し、その結果を集合研修に持ちよって、さらに研修に生かしていく、という枠組みのものを指す。北九州では地域でコーディネーターの役割を担う人たち

を対象に、この OJT 型研修が行われた。岡山では OJT 型ではない、ESD コーディネーター入門編の研修が行われた。そして稲城では教員対象の ESD 研修が行われたが、その中で地域の NPO や学校コーディネーターも一緒に参加し授業研究を行うことで、連携を育む場を創出している。(各地の実施概要とレポートは p9-p11 に掲載)

Pont1 ESD に必要な「ものの見方・考え方」を 学ぶフィールドワーク

ワーキングでは、研修に欠かせない重要なポイントとして、「ものの見方・考え方」を磨くことが指摘された。「そこにある課題を見つける力を養う」「どこに課題を感じ、どうしたいのかを考える」「どう地域へ広げていくのかを考える」などが大切であり、だからこそ、地域のリアリティ(=現場)の中でフィールドワークやOJTを行うことが必要なのだと。「答えは現場にある。だから"現場を見る"ことは必須」「社会の課題に向き合うスタンスのない研修は、魂のない仏」

Pont2 コーディネーターとしての Being をつかむ

コーディネーターに必要なスキルやノウハウはたくさん あるが、それらをひとつひとつ教える研修には限界がある、 という指摘もあった。

それよりも、そもそも自分はどういう存在か(= Being)を知り、地域の中で自分はどうありたいか(= Being)を見つめ、立ち位置を認識することが大切である。意識(Being)が変われば行動(Doing)はおのずと変わる、スキルは後からついてくる。あとは現場でやってみて、困ったらサポートできる仕組み、「駆け込み寺」のようなものがあればよいのではないか。

Pont3 体験を通して学ぶ、人はいつ「変わる」 のか?を知る

そして、これらを学ぶ方法として、体験学習は欠かせないことが確認された。Doing(見えているもの、行動)を通してBeing(見えていないもの、想い、関係性)を問う、逆にまず行動してみることで、内面的な変化を促す、など。人はいつ学ぶのか、人はいつ変わるのか、を知っておくことはとても大切なことだ。ESDの「E」の本質がここにある。そういう意味で、研修の中に体験学習をしっかり位置づけるだけでなく、その理論についての講義を入れることは大切である。

(ESD コーディネーター・プロジェクト事務局 村上千里)

Ⅲ ESD コーディネーター育成セミナー 報告

~持続可能な地域づくり、学びの場づくりに大切なコト~

【日 時】平成25年1月30日(水)10:00~18:00 31日(木)9:00~17:00

【場 所】 ゆうあいセンター (岡山県岡山市)

【参加者】 32 名

【講師】 志賀誠治(人間科学研究所)

【主 催】 環境省中国環境パートナーシップオフィス

【協 力】 岡山市

【内 容】

1日目 オープニング、オリエンテーション

セッション1:こんにちは!はじめまして!

セッション2: これだけは知っておきたい ESD の基本 セッション3: 私のライフスタイルから ESD を考える

セッション 4: ESD が目指す教育の特徴 1日目のふりかえりとわかちあい

2日目 アイスブレイキング

セッション 5: ESD コーディネーターって何だ?

セッション 6: コーディネーションのツボはここだ!

セッション 7:みんなの疑問にみんなで答える

セッション8:コーディネーターを始めるためのエクササイズ

2日間のふりかえりとわかちあい

クロージング

平日開催の中、20~30代といった比較的若い年代や、学生、NPO関係者、企業社員、行政職員など、多様な属性の方がESDの可能性に期待して大勢参加した。初めてESD

という概念に触れる方もいたので、研修は ESD の基本や コーディネーターに必要な 7 つの視点、参加型の学びの場 の作り方・まわし方といった基礎的な目標と内容を設けた。

8つのセッションでは、講義やグループワークなどを通して、一人ひとりが ESD という視点やコーディネーターとしての自分のあり方を整理し、参加者同士でお互いの価値観やビジョンを共有した。ふりかえりとわかちあいでは、コーディネーターやファシリテーターとしての役割もしっかりと学んだけど、それ以上に多くの人の声が聴けてよかったという感想が多くあった。また、講師の志賀さんのファシリテーションから、場づくりの大切さや自分の意見を受け入れてもらえる嬉しさを体験することができたと、参加者の満足度は高かった様子。

今年度は、2日間のESDコーディネーター育成セミナーを実施し、多様な参加者がESDについて理解を深めることができ、持続可能な地域づくりに向けた関係構築やコーディネーターとしての役割・あり方の見つめ直し、今後の実践に向けた意識を高める機会となった。ただし、今回は基礎的な研修内容であったため、OJT型研修の実施に向けて、基本的な知識や技術の習得だけでなく、具体的な事例からの学びあいや実践の機会、それに伴う評価・検証等の必要性を感じた。 (報告:EPOちゅうごく 松原裕樹)

稲城 ESD コーディネーター育成セミナー 報告

H24 年度 稲城市教育委員会 ESD 研修会

П	日時	内 容
第1回	6月12日(火)	各校の ESD カレンダーについて
第2回	7月3日(金)	各校の課題を持ち寄り、改善につい て検討
第3回	9月21日(金)	公開授業1「坂浜の水・上谷戸親水公園について考えよう」
第4回	10月30日(火)	公開授業 2「ESD の視点にたった防災 教育」
第5回	11月13日(火)	公開授業3「大豆を育ててとうふを作 ろう」
第6回	12月14日(金)	公開授業 4「ユニセフクリーン大作戦」
第7回	1月19日(土)	ユネスコスクール研修会 in 多摩
第8回	2月26日(火)	見本市

学校が ESD コーディネーターに求める資質・能力は、ESD の知識、地域社会の情報掌握、人材・教材へのアクセス、学校と教育課程の理解、ファシリテーションスキルの5つです。

稲城市は東京都の郊外に位置し、梨の産地として豊かな自然が残る住みやすい街です。これまでも地域の協力を得ながらの学校教育が充実していますが、教育内容の充実や指導方法の改善などが行われ、地域住民や企業、NPOなどの学校教育への参加や参画がこれまで以上に求められています。

全校で進める ESD は、社会的・国際的な課題を横断的に取扱う問題解決的な未来志向の学習であり、学校外の教育力を積極的に内包化する必要性があり、上記の役割を担うコーディネーターの育成と参画が目下の課題となっています。

ESD のコーディネーター育成については、前任地の多摩市での経験を踏まえて ESD — J と連携を図りながら、ECOM の森 良氏を通年の講師として招へいして、OJT 型の研修会を全7回実施しています。現在は学校への ESD の浸透を中心に据えていますが、地域住民をはじめ関係者には研修をオープンにして、誰でも参加できます。教員と役所の環境担当者・地域住民・保護者などが一緒に研修に参加しながら ESD の指導計画の作成を進めており、コーディネーター育成の側面も含んでいます。

その過程では、閉じた中では得られないアイディアや解決方法が生み出され、最終的には児童・生徒にとっても魅力のある ESD の学習が生み出されることが期待されています。一時的な授業の支援者としてではなく、企画やその評価にもコーディネーターが携わることが必要だと考えています。また、教育課程や学校や教員のもつ文化などへの理解促進や学校組織との課題の共有、人間関係の構築や促進なども研修の意味としては、重要なものと考えて位置付ける必要を感じており、今後も充実させたいと考えています。

(報告:稲城市教育委員会 千葉正法)

コーディネーター研修の現場から 第3回

北九州市ESDコーディネーター育成講座「ESD未来創造セミナー」

~市民センター館長・社会教育主事等を中心に~

NPO 法人 北九州サスティナビリティ研究所理事長 北九州市環境局環境学習課 ESD 推進係長 三隅佳子 德永晶子

1. ESD 未来創造セミナー開講のきっかけ

北九州 ESD 協議会は、北九州地域での ESD 活動を推進するため、市民の呼びかけによって平成 18 年に市民団体、企業、学校、行政等 44 団体で設立されました(現在 75 団体)。NPO 法人北九州サスティナビリティ研究所もその構成団体で、ESD の支援を活動の一つにしています。

北九州市はこれまで、公害を始めとするさまざまな環境問題を克服してきました。現在も地域や都市の中で人が輝く、賑わい・安らぎ・活力のあるまちを目指して多様な環境の取組みを進めており、平成23年には国から「環境未来都市」に選定されました。

これらの取組みの原動力となるのが、市民の環境力です。「環境未来都市」の基盤となる持続可能な社会づくりのためには、知識の習得にとどまらず、それを活用して自ら考え、判断し、行動するとともに、知識や理解した内容を周囲の人々に伝え、社会を動かすことのできる人材を育成する必要があります。

北九州 ESD 協議会では、設立当初から毎年、会員を対象に、ファシリテーター研修講座を行ってきましたが、十分実践につながったとは言い難い状態でした。そのような中、北九州市は環境未来都市構想が掲げる目標に積極的に取り組むため、市民活動団体の発想や専門性等を活かした提案を市と協働で実施する事業を開始しました。当法人は ESD 活動を担う人材育成研修を市と協働で行うことが、北九州全域に ESD 活動の普及に極めて有効であるとの主旨を提案し、その重要性が認められ採択・開講の運びとなりました。

2. セミナーのねらい

九州市には、小学校区毎に設置されている市民センターを始めとして市民活動を支援する施設が多くあり、すでに地域の特徴を活かしながら環境や社会を良くするためのさまざまな学習や実践活動が行われています。一方近年、地域の課題はさまざまな問題が複雑に絡み合っており、少人数で取り組んでも解決が困難なことが多く、地域としても新しい切り口を探求していると言えます。

そのため、環境のみならず、人権、ジェンダー、福祉、貧困削減、多文化共生など多様なテーマに取り組んでいる地域の関係者の分野横断的な協働を生み出す視点とそのための技量をエンパワーし、課題解決のための行動変容と社会変革に向けた思いと力を引き出し、それを形にする視点と力を身に付けるESDコーディネーターの育成が必要と考えました。

そこで、このセミナーでは、すでに地域の実情に知見があり、 リーダーシップやマネジメントの経験を持ち、後に広がりを持 つことができる市民センター館長、社会教育主事・主事補、環 境学習施設の職員等を対象としました。

3. セミナーカリキュラムの内容と特色

カリキュラムづくりにおいては、効果的かつ有意義なものになるよう、保育所や大学、生涯学習等各世代にわたる教育関係者や行政からなる作成委員会を設置し、幅広い視点かつ専門的な意見をいただきました。さらに、ESD-J に講師について助言をいただき、下表のとおりカリキュラムをまとめました。

ESD 未来創造セミナー カリキュラム

	日程等	内容(講師)		
セミナー I 基礎 習得	H24.12.1 ~ 12.2 (9:00 ~ 17:00)	 ○ 北九州における ESD の取組紹介 (三隅佳子理事長) ○ 基礎的知識の習得、環境教育の要、ESD コーディネーターの役割・スキル、ESD の視点等の習得、ESD の共通認識、課題の明確化(都留文科大学 高田研教授) ○ 岡山市京山公民館の取組紹介 (ESD-J 池田満之副代表理事) ○ フィールドワーク (都留文科大学 高田研教授) "ESD の事業"を考えることを通して地元地域の見方と考え方の視点を持ち、地域課題を見つける 		
参加者の地域における課題を選び、2日間で習得した手法を用いた企画案作成				
セミナーII 企画力 養成	H25.1.26 ~ 1.27 (9:00 ~ 17:00)	 ○ 都留文科大学での取組事例紹介(都留文科大学 高田研教授) ○ 各自の考えた(宿題)地域の課題とその解決に向けた ESD プログラムの発表 ○ 京都での取組事例紹介(広島修道大学 西村仁志准教授) ○ 自分の地域の再発見(広島修道大学 西村仁志准教授) ・まちの資源を活かして市民が進めるまちづくり、企画力の習得 ○ ESD コーディネーターの役割を講義の中から見出す(高田研教授、西村仁志准教授) ○ 企画書作成・プレゼン実施 		
フォロー アップ 会合	H25.3.2 (13:30 ~ 16:30)	○ 「今日本、世界の ESD !!」ESD の先進事例の習得(ESD-J 村上千里事務局長) ○ 受講生による企画書発表 ○ 全員参加型パネルディスカッション(都留文科大学 高田研教授)		

また、セミナーに参加していただきやすいように、事前学習 として市民センター館長全員(7区に129名)に、ESDの説 明やこれまでの活動等の紹介を行いました。

セミナーの目標は、ワークショップやフィールドワークを中 心に「自ら課題を見つけ出す力」と「地域における課題解決に 向けた企画力」を身につけることです。セミナー I では ESD の基礎知識・事例を学んだ後、班にわかれてフィールドワーク を行い、意見を出しながら全員でマップを作成しました。テー マは「人と自然との関わり」と「時代の流れ」。セミナーⅡで は、セミナーI終了後の宿題(参加者自身の地域における課題 とその解決プログラムをマップに落とす)を全員が発表。さら に企画書づくりの具体的な方法を学び、各自が企画書作成に挑 戦。その成果品の中からフォローアップ会合で発表する企画書 を参加者全員がコンペ形式で選びました。

4. セミナーの成果

当初見込んだ定員(30名程度)を上回る45名もの応募が あり、本セミナーの受講による社会・地域への貢献に向けた期 待度・関心度の高さが伺えました。

講座終了後、参加者からは、ESDは「地域を見直す切り口」、 「地域課題解決に向けた糸口」になったという声を多く聞くこ とができました。さらに、気付き・課題を多面から見ることの 大切さや多分野にわたる多くの人が関わり学びあう楽しさを味 わい、今後のまちづくり活動において重要な視点として ESD を加えたい(+ ESD) という意見も多くありました。

フォローアップ会合においても、一般参加者から次回のセ ミナーにぜひ参加したいとの声もあったほか、「これからのま ちづくり」のテーマにもとづく全員参加型のパネルディスカッ ションは反響が大きく、地域のために何かしたいという参加者 の前向きな気持ちと熱意に心強さを感じました

5. 今後の課題

ESD コーディネーターは、まさに持続可能な未来を創造する 人であり、そのような人々がこのセミナーをきっかけに誕生す ることを願って、「ESD 未来創造セミナー」と命名しました。 今回のセミナーを終え、ESD 活動の普及を図るためには、今 後もこの ESD コーディネーター研修を継続し、つなぎ・まと め役たる人材育成に力を入れていく必要があると実感していま す。さらに、今回のセミナーの受講生のフォローを丁寧に行う ことが、次なる ESD 普及の決め手であり、これからの課題です。 セミナーを受講した人びとが核となり、「北九州 100 万人市 民が ESD 活動を実践! につながっていくことを目指し、進

団体紹介:北九州サスティナビリティ研修所

んでいきたいと考えています。

市民、団体、企業、行政のネットワークに基づく持続可能(サスティナブル) な社会システムの構築、地域活性化への寄与を目的に設立。キーワードは、法 人名のとおり「サスティナビリティ」。SD に関わる研究・教育活動を実施し、 国際業務を受託するなど、北九州 ESD 協議会の活動も支援。

講師コメント

本研修は環境省「地域における ESD の取組強化推 進業務 | ESD コーディネーター育成のあり方検討会 (座長,高田) において試案を策定した、育成ガイド ラインに沿って今回の研修をデザインしている。既



に地域のコーディネーターとして働く社会教育関係者、地域の NPO の方々を対象とすること。そしてそれぞれの仕事内容に沿っ た On Job Training 型研修として、現在の仕事に ESD の視点を加 えることを支援する研修となっている。

北九州市は明治からの製鉄のまちであり、男社会/製鉄城下町 である。1950年代の経済成長に伴う大気汚染公害の激しさに対 して立ち上がったのは婦人会であった。そこに当時の社会教育指 導主事が加わり、母親たちによる「青空がほしい」の運動が始まっ た。地域では"語る事さえも許されなかった"問題に真摯に向き 合って来られた市民による環境運動の歴史の文脈がある。環境の 運動は女性たちを目覚めさせ、それは男女共同参画へ大きなうね りを創出した。北九州 ESD 協議会代表, 寺坂カタエ (92才) は その流れに ESD を位置づける。

持続可能性という概念は「貧困、人口、健康、食糧の確保、民 主主義、人権、平和をも包含する。」社会的公正と不可分な関係 にある。そのことを明確に打ち出しているのが北九州における実 践である。

まち歩きからは様々な地域の課題が見えた。本研修で生まれた 成果品としての企画は、持続可能な地域づくりの新たな一歩であ る。この一歩を確実に踏み出されることに、私ども ESD-J コーディ ネーター育成部会一同は期待している。

国信 コメント(編集長:森良)

まさにいま地域で一番必要な研修をいい形でやっていただいたとい うのが第一の感想である。地域で市民と直接に向きあい学習や活動を オーガナイズしていく仕事をしている人たちにこそ ESD の視点と方法 を身につけていただきたいからである。わたしは、こうした子どもや 市民に向き合っている人々こそがまずエンパワーされる必要があると 感じている。今回それはうまくスタートをきることができただろう。

次の課題は、北九州市の行政、企業、大学、NPO 等多様な立場から 持続可能な地域づくりを考えている人たちによる現場を踏まえた戦略 的な対話である。それをオーガナイズできる全体的なコーディネーター の育成が重要となろう。



セミナー!!:地域課題の発表作成

ESD-J全国ミーティング 2013 in 岡山

「未来へつなぐ」を現場で学ぶ

- 2014年の ESD ユネスコ世界会議と 2015年以降の ESD の推進に向けて-

【日 時】 1日目: 2013年6月15日(土) 13時~18時

(18時30分より懇親会を開催)

(6月15日10時30分よりESD-J総会を開催)

2日目:6月16日(日)9時30分~16時

【会場】 岡山大学 (岡山市北区津島中 1-1-1)

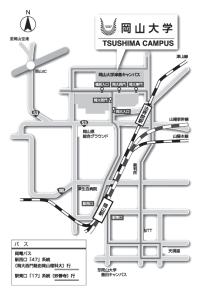
(分科会は岡山市内の公民館にて開催)

【参加費】 2日間参加 4000円 (正会員・学生 2000円)

1日のみ参加 2000円 (正会員・学生 1000円)

【主 催】 ESD-J

【共催】 岡山市(予定)



2013 年の ESD-J の全国ミーティングは、ユネスコ世界会議のステークホルダー会議の開催地となる岡山市で行います。 ESD の推進に関わる全国の皆さま、2014 年の世界会議を盛り上げるために私たちができることを見つけてアクションを起こすことは勿論のこと、2015 年以降の ESD による未来の展望を「見える化」するために、熱い議論と情報交換の場にしましょう。

* ESD の重要なキーワード「つなぐ」、その要となるコーディネーター機能について、地域の ESD 推進拠点として、地域と学校、NPO などをつなぐ役割を担おうとしている岡山市の公民館とその活動現場から学びあいましょう。

*エクスカーションは2つ企画中です。

① 14日:話題の「瀬戸内国際芸術祭 2013」のおすすめの常設会場を巡るツアー。

② 17 日:水の豊かな岡山らしく「水と人との関わりを巡る旅(仮称)」バスツアー。

詳しくは ESD-J ウェブサイトで情報発信の予定です。皆さん日程の確保を!!

●編集後記 ●

前回約 500 文字

認定NPO法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議(ESD-J)

http://www.esd-j.org/e-mail:admin@esd-j.org

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里5-38-5 日能研ビル201 TEL: 03-5834-2061 FAX: 03-5834-2062

編集:ESD-J『未来へつなぐ』制作チーム レイアウト:河村久美





